



Sun Cluster 3.1 データサービス 10/03 ご使用にあたって

Sun Microsystems, Inc.
4150 Network Circle
Santa Clara, CA 95054
U.S.A.

Part No: 817-4980-10
2003 年 10 月, Revision A

Copyright 2003 Sun Microsystems, Inc. 4150 Network Circle, Santa Clara, CA 95054 U.S.A. All rights reserved.

本製品およびそれに関連する文書は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社の書面による事前の許可なく、本製品および関連する文書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company, Ltd. が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。フォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

Federal Acquisitions: Commercial Software—Government Users Subject to Standard License Terms and Conditions.

本製品に含まれる HG-MinchoL、HG-MinchoL-Sun、HG-PMinchoL-Sun、HG-GothicB、HG-GothicB-Sun、および HG-PGothicB-Sun は、株式会社リコーがリコービイマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェイスマスタをもとに作成されたものです。HeiseiMin-W3H は、株式会社リコーが財団法人日本規格協会からライセンス供与されたタイプフェイスマスタをもとに作成されたものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun、Sun Microsystems、docs.sun.com、AnswerBook、AnswerBook2 は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) の商標もしくは登録商標です。

サンのロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャに基づくものです。

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

Wnn は、京都大学、株式会社アステック、オムロン株式会社で共同開発されたソフトウェアです。

Wnn6 は、オムロン株式会社、オムロンソフトウェア株式会社で共同開発されたソフトウェアです。© Copyright OMRON Co., Ltd. 1995-2000. All Rights Reserved. © Copyright OMRON SOFTWARE Co., Ltd. 1995-2002 All Rights Reserved.

「ATOK」は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。

「ATOK Server/ATOK12」は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、「ATOK Server/ATOK12」にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

本製品に含まれる郵便番号辞書 (7 桁/5 桁) は郵政事業庁が公開したデータを元に制作された物です (一部データの加工を行なっています)。

本製品に含まれるフェイスマーク辞書は、株式会社ビレッジセンターの許諾のもと、同社が発行する『インターネット・パソコン通信フェイスマークガイド '98』に添付のものを使用しています。© 1997 ビレッジセンター

Unicode は、Unicode, Inc. の商標です。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPEN LOOK および Sun Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザインタフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

DiComboBox ウィジェットと DtSpinBox ウィジェットのプログラムおよびドキュメントは、Interleaf, Inc. から提供されたものです。(© 1993 Interleaf, Inc.)

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されず、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法 (外為法) に定められる戦略物資等 (貨物または役務) に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典: Sun Cluster 3.1 Data Services 10/03 Release Notes

Part No: 817-3324-10

Revision A



040427@8606



目次

Sun Cluster 3.1 データサービス 10/03 ご使用にあたって	5
Sun Cluster 3.1 Data Services 10/03 の新機能	5
Sun Cluster HA for Oracle Data Service の拡張	5
Sun Cluster Support for Oracle Parallel Server/Real Application Clusters Data Service の拡張	6
リソースタイプの拡張	6
新たにサポートされるようになったデータサービス	6
サポートされる製品	7
制限事項	11
インストールの問題とバグ	13
インストールのガイドライン	13
passwd に関する Sun Cluster HA for liveCache nsswitch.conf 要件によって NIS が使用できなくなる (4904975)	14
管理実行時の問題とバグ	14
SCI インターコネクトが無効の場合 HA Oracle インスタンスを開始できない (4823212)	14
HA Oracle Stop メソッドのタイムアウト (4644289)	14
SAP liveCache Stop メソッドのタイムアウト (4836272)	15
HA Oracle リスナー検証のタイムアウト (4900140)	15
HA-Siebel が障害が発生した Siebel コンポーネントを自動で再起動できない (4722288)	15
xserver_svc_start が xserver が使用できないことを起動時に報告する (4738554)	15
xserver リソースをフェイルオーバーリソースとして構成できない (4836248)	16
Monitor Uri List を使用するには、Type_version を 4 に設定する (4924147)	16
su コマンドがプロジェクト識別子をリセットする (4868654)	16

パッチと必須ファームウェアのレベル	17
PatchPro	17
SunSolve Online	17
サポートされなくなった機能	18
HAStorage	18
Sun Cluster 3.1 Data Services 10/03 ソフトウェアの地域対応	18
Sun Cluster 3.1 Data Services 10/03 のマニュアル	20
マニュアルの問題点	23
Sun Cluster 3.1 Data Service for Oracle Parallel Server/Real Application Clusters ガイド	23
Sun Cluster 3.1 Data Service for Oracle E-Business Suite ガイド	28
Sun Cluster 3.1 Data Service 10/03 for Sun ONE Directory Server および Sun ONE Web Server	29
Sun Cluster 3.1 Data Service 10/03 for SAP liveCache	29
Sun Cluster 3.1 Data Service 10/03 for WebLogic Server	30
Sun Cluster 3.1 Data Service 10/03 for Apache	30
Sun Cluster 3.1 Data Service 10/03 for Sun ONE Web Server	31
マニュアルページ	31
A 新しいエラーメッセージ	33
Message IDs 100000–199999	34
Message IDs 200000–299999	36
Message IDs 300000–399999	39
Message IDs 400000–499999	42
Message IDs 500000–599999	45
Message IDs 600000–699999	48
Message IDs 700000–799999	51
Message IDs 800000–899999	55
Message IDs 900000–999999	58

Sun Cluster 3.1 データサービス 10/03 ご使用にあたって

このマニュアルでは、Sun™ Cluster 3.1 Data Services 10/03 ソフトウェアに関する次の情報を説明します。

- 5 ページの「Sun Cluster 3.1 Data Services 10/03 の新機能」
- 13 ページの「インストールの問題とバグ」
- 14 ページの「管理実行時の問題とバグ」
- 17 ページの「パッチと必須ファームウェアのレベル」
- 18 ページの「サポートされなくなった機能」
- 18 ページの「Sun Cluster 3.1 Data Services 10/03 ソフトウェアの地域対応」
- 20 ページの「Sun Cluster 3.1 Data Services 10/03 のマニュアル」
- 23 ページの「マニュアルの問題点」

Sun Cluster 3.1 Data Services 10/03 の新機能

この節では、新しい特長と機能について説明します。サポートされるハードウェアとソフトウェアについては、ご購入先にお問い合わせください。

Sun Cluster HA for Oracle Data Service の拡張

Sun Cluster HA for Oracle サーバー障害モニターが拡張され、サーバー障害モニターの動作を以下のようにカスタマイズできるようになりました。

- エラーに対するプリセットアクションを無効にする
- アクションがプリセットされていないエラーに対してアクションを指定する

詳細については、『Sun Cluster 3.1 Data Service for Oracle ガイド』を参照してください。

Sun Cluster Support for Oracle Parallel Server/Real Application Clusters Data Service の拡張

Sun Cluster Support for Oracle Parallel Server/Real Application Clusters データサービスが拡張され、Sun Cluster コマンドを使ってこのデータサービスを管理できるようになりました。

詳細については、『*Sun Cluster 3.1 Data Service for Oracle Parallel Server/Real Application Clusters* ガイド』を参照してください。

リソースタイプの拡張

Sun Cluster 3.1 Data Services 10/03 では以下のリソースタイプが拡張されました。

- SUNW.oracle_server (『*Sun Cluster 3.1 Data Service for Oracle* ガイド』を参照)
- SUNW.apache (『*Sun Cluster 3.1 Data Service for Apache* ガイド』を参照)
- SUNW.iws (『*Sun Cluster 3.1 Data Service for Sun ONE Web Server* ガイド』を参照)

リソースタイプのアップグレードについての一般的な情報については、『*Sun Cluster 3.1 データサービスの計画と管理*』の「リソースタイプの更新」を参照してください。

新たにサポートされるようになったデータサービス

Sun Cluster 3.1 Data Services 10/03 は、以下のデータサービスをサポートしています。

- Sun Cluster HA for Apache Tomcat – Sun Cluster HA for Apache Tomcat データサービスを使用すると、Apache Tomcat サービスの正常起動、正常終了、障害監視および自動フェイルオーバーを実行できます。Apache Tomcat は、Apache Web サーバーのサーブレットエンジンとして動作し、サーブレットエンジンを含むスタンドアロン Web サーバーとして構成できます。
- Sun Cluster HA for MySQL – Sun Cluster HA for MySQL データサービスを使用すると、MySQL サービスの正常起動、正常終了、障害監視および自動フェイルオーバーを実行できます。MySQL ソフトウェアは、超高速でマルチスレッド、マルチユーザーの堅牢な Structured Query Language (SQL) データベースサーバーを提供します。MySQL サーバーはミッションクリティカルで負荷の高い実稼働システムを対象にしていると同時に、大量に配備されるソフトウェアの組み込みも対象にしています。
- Sun Cluster HA for Oracle E-Business Suite – Sun Cluster HA for Oracle E-Business Suite データサービスを使用すると、Oracle E-Business Suite サービスの正常起動、正常終了、障害監視および自動フェイルオーバーを実行できます。Oracle E-Business Suite は、ビジネスアプリケーションの一式で、これを使用する

とユーザーは統一されたオープンアーキテクチャーを使用してビジネスプロセスを効率的に管理できます。このアーキテクチャーは、Oracle 製品をサポートする多層型分散コンピューティング向けのフレームワークです。

- Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Access – Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Access データサービスを使用すると、SWIFTAlliance Access サービスの正常起動、正常終了、障害監視および自動フェイルオーバーを実行できます。

サポートされる製品

この節では、Sun Cluster 3.1 ソフトウェアでサポートされるソフトウェアとメモリーの必要条件を説明します。

- オペレーティング環境とパッチ – サポートされる Solaris のバージョンとパッチは次の URL で入手できます。

<http://sunsolve.sun.com>

詳細は、17 ページの「パッチと必須ファームウェアのレベル」を参照してください。

- ボリューム管理ソフトウェア
 - Solaris 8 の場合 – Solstice DiskSuite™ 4.2.1 と VERITAS Volume Manager 3.2 および 3.5
 - Solaris 9 の場合 – Solaris ボリュームマネージャ と VERITAS Volume Manager 3.5

注 – VERITAS Volume Manager (VxVM) 3.2 から 3.5 へアップグレードする場合は、バージョン 3.5 用に CVM ライセンスキーをインストールするまでは Cluster Volume Manger (CVM) 機能を利用することはできません。VxVM 3.5 では、バージョン 3.2 の CVM ライセンスキーによって CVM が有効になることはありません。バージョン 3.2 の CVM ライセンスキーはバージョン 3.5 の CVM ライセンスキーにアップグレードする必要があります。

- ファイルシステム
 - Solaris 8 の場合 – Solaris UFS と VERITAS File System 3.4 および 3.5
 - Solaris 9 の場合 – Solaris UFS と VERITAS File System 3.5
- データサービス (エージェント) – サポートされるデータサービスとアプリケーションバージョンについては、ご購入先にお問い合わせください。scinstall (1M) ユーティリティを使用してデータサービスをインストールする場合は、リソースタイプの名前を指定します。scsetup (1M) ユーティリティを使用してデータサービスと関連のあるリソースタイプを登録するときもリソースタイプ名を指定してください。

注 - iPlanet Directory Server 5.0 と 5.1 (および Netscape HTTP、バージョン 4.11、4.12、4.13、4.16) を使用する Sun Cluster HA for Sun ONE Directory Server のバージョンでの手順については、『*Sun Cluster 3.1 Data Service for Sun ONE Directory Server ガイド*』を参照してください。iPlanet Directory Server (現在は Sun ONE Directory Server) のこれ以降のバージョンについては、Sun ONE Directory Server 製品のマニュアルを参照してください。

表 1-1 Sun Cluster 3.1 ソフトウェアでサポートされるデータサービス

データサービス	Sun Cluster リソースタイプ
Sun Cluster HA for Apache	SUNW.apache
Sun Cluster HA for Apache Tomcat	SUNW.sctomcat
Sun Cluster HA for BroadVision One-To-One Enterprise	SUNW.bv
Sun Cluster HA for DHCP	SUNW.gds
Sun Cluster HA for DNS	SUNW.dns
Sun Cluster HA for MySQL	SUNW.scmys
Sun Cluster HA for NetBackup	SUNW.netbackup_master
Sun Cluster HA for NFS	SUNW.nfs
Sun Cluster HA for Oracle E-Business Suite	SUNW.scebs
Sun Cluster HA for Oracle	SUNW.oracle_server SUNW.oracle_listener
Sun Cluster Support for Oracle Parallel Server/Real Application Clusters	SUNW.rac_framework SUNW.rac_udlm SUNW.rac_cvm SUNW.rac_hwraid
Sun Cluster HA for SAP	SUNW.sap_ci SUNW.sap_ci_v2 SUNW.sap_as SUNW.sap_as_v2
Sun Cluster HA for SAP liveCache	SUNW.sap_livecache SUNW.sap_xserver
Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Access	SUNW.scsaa

表 1-1 Sun Cluster 3.1 ソフトウェアでサポートされるデータサービス (続き)

データサービス	Sun Cluster リソースタイプ
Sun Cluster HA for Samba	SUNW.gds
Sun Cluster HA for Siebel	SUNW.sblgtwy SUNW.sblsrvr
Sun Cluster HA for Sun ONE Application Server	SUNW.s1as
Sun Cluster HA for Sun ONE Directory Server (このデータサービスは旧 Sun Cluster HA for iPlanet Directory Server です)	SUNW.nsldap
Sun Cluster HA for Sun ONE Message Queue	SUNW.s1mq
Sun Cluster HA for Sun ONE Web Server (このデータサービスは旧 Sun Cluster HA for iPlanet Web Server です)	SUNW.iws
Sun Cluster HA for Sybase ASE	SUNW.sybase
Sun Cluster HA for WebLogic Server	SUNW.wls
Sun Cluster HA for WebSphere MQ	SUNW.gds
Sun Cluster HA for WebSphere MQ Integrator	SUNW.gds

- メモリーの条件 – Sun Cluster 3.1 ソフトウェアでは、通常の負荷を想定して構成されているノードに対しては、メモリーを追加する必要があります。追加するメモリーは 128M バイト + 10% となります。たとえば、スタンドアロンのノードに通常 1G バイトのメモリーが必要な場合、Sun Cluster 3.0 のメモリーの必要条件を満たすには 256M バイトを追加する必要があります。
- RSMAPI – Sun Cluster 3.1 ソフトウェアは、RSM 対応のインターコネクト (PCI-SCI など) で Remote Shared Memory Application Programming Interface (RSMAPI) をサポートします。

Sun Cluster のセキュリティ強化

Sun Cluster のセキュリティ強化では、Sun BluePrints™ プログラムが推奨している Solaris オペレーティング環境の強化技術を使用し、クラスタの基本的なセキュリティ強化を達成しています。Solaris Security Toolkit は Sun Cluster のセキュリティ強化を自動的に実装します。

Sun Cluster のセキュリティ強化のドキュメントは、<http://www.sun.com/blueprints/0203/817-1079.pdf> で入手できます。また、<http://www.sun.com/software/security/blueprints> にも資料が掲載されています。この URL から「Architecture」という見出しにスクロールし、「Securing the Sun Cluster 3.x Software」という資料を見つけてください。この文書

は、Solaris 8 環境と Solaris 9 環境において Sun Cluster 3.1 の堅牢性を高める方法について説明したものです。この文書には、Solaris Security Toolkit など、Sun のセキュリティ専門家たちが推薦している最良のセキュリティテクニックの使い方も記載されています。

表 1-2 Sun Cluster のセキュリティ強化がサポートするデータサービス

データサービスエージェント	アプリケーションのバージョン: フェイ ルオーバー	アプリケーションのバージョン: スケール ラブル	Solaris のバージョン
Sun Cluster HA for Apache	1.3.9	1.3.9	Solaris 8, Solaris 9 (バージョン 1.3.9)
Sun Cluster HA for Apache Tomcat	3.3, 4.0, 4.1	3.3, 4.0, 4.1	Solaris 8, Solaris 9
Sun Cluster HA for DHCP	S8U7+	なし	Solaris 8, Solaris 9
Sun Cluster HA for DNS	OS にバンドル	なし	Solaris 8, Solaris 9
Sun Cluster HA for iPlanet Messaging Server	6.0	4.1	Solaris 8
Sun Cluster HA for MySQL	3.23.54a - 4.0.15	なし	Solaris 8, Solaris 9
Sun Cluster HA for NetBackup	3.4	なし	Solaris 8
Sun Cluster HA for NFS	OS にバンドル	なし	Solaris 8, Solaris 9
Sun Cluster HA for Oracle E-Business Suite	11.5.8	なし	Solaris 8, Solaris 9
Sun Cluster HA for Oracle	8.1.7 と 9i (32 ビットと 64 ビット)	なし	Solaris 8, Solaris 9 (HA Oracle 9iR2)
Sun Cluster Support for Oracle Parallel Server/Real Application Clusters	8.1.7 と 9i (32 ビットと 64 ビット)	なし	Solaris 8, Solaris 9
Sun Cluster HA for SAP	4.6D (32 ビットと 64 ビット) と 6.20	4.6D (32 ビットと 64 ビット) と 6.20	Solaris 8, Solaris 9
Sun Cluster HA for SWIFTAlliance Access	4.1, 5.0	なし	Solaris 8
Sun Cluster HA for Samba	2.2.2, 2.2.7, 2.2.7a, 2.2.8, 2.2.8a	なし	Solaris 8, Solaris 9

表 1-2 Sun Cluster のセキュリティ強化がサポートするデータサービス (続き)

データサービスエージェント	アプリケーションのバージョン: フェイ ルオーバー	アプリケーションのバージョン: スケー ラブル	Solaris のバージョン
Sun Cluster HA for Siebel	7.5	なし	Solaris 8
Sun Cluster HA for Sun ONE Application Server	7.0、7.0 update 1	なし	Solaris 8、Solaris 9
Sun Cluster HA for Sun ONE Directory Server	4.12	なし	Solaris 8、Solaris 9 (バージョン 5.1)
Sun Cluster HA for Sun ONE Message Queue	3.0.1	なし	Solaris 8、Solaris 9
Sun Cluster HA for Sun ONE Web Server	6.0	4.1	Solaris 8、Solaris 9 (バージョン 4.1)
Sun Cluster HA for Sybase ASE	12.0 (32 ビット)	なし	Solaris 8
Sun Cluster HA for BEA WebLogic Server	7.0	なし	Solaris 8、Solaris 9
Sun Cluster HA for WebSphere MQ	5.2、5.3	なし	Solaris 8、Solaris 9
Sun Cluster HA for WebSphere MQ Integrator	2.0.2、2.1	なし	Solaris 8、Solaris 9

制限事項

Sun Cluster 3.1 上での Sun Cluster HA for Oracle 3.0 の実行

Sun Cluster HA for Oracle 3.0 データサービスを Sun Cluster 3.1 上で実行できるのは、次に示す Solaris オペレーティング環境バージョンで使用する場合だけです。

- Solaris 8、32 ビットバージョン
- Solaris 8、64 ビットバージョン
- Solaris 9、32 ビットバージョン

注 - 64 ビットバージョンの Solaris 9 で使用する場合には、Sun Cluster HA for Oracle 3.0 データサービスを Sun Cluster 3.1 上で実行できません。

Sun Cluster HA for Oracle Parallel Server/Real Application Cluster

Sun Cluster ソフトウェアのインストール後はホスト名を変更できないので、Oracle Parallel Server/Real Application Adhere クラスターの Oracle Parallel Fail Safe/Real Application Clusters Guard オプションのマニュアルどおりに操作を行います。

ホスト名とノード名に関するこの制限の詳細については、Oracle Parallel Fail Safe/Real Application Clusters Guard のマニュアルを参照してください。

Sun Cluster HA for NetBackup

- VERITAS NetBackup クライアントがクラスターの場合、bp.conf ファイルは 1 つしかないため、クライアントとして構成できる論理ホストは 1 つだけです。
- NetBackup クライアントがクラスターで、クラスター上の論理ホストの 1 つが NetBackup クライアントとして構成されている場合、NetBackup は物理ホストをバックアップできません。
- マスターサーバーが動作しているクラスター上では、マスターサーバーはバックアップできる唯一の論理ホストです。
- バックアップメディアはマスターサーバーには接続できないため、他にメディアサーバーが必要です。
- Sun Cluster 環境で無人制御がサポートされているのは、メディアサーバーだけです。Sun Cluster を実行する NetBackup マスターサーバー上ではサポートされていません。

Sun Cluster HA for NFS

- Sun Cluster ノードは、同じクラスター内のノード上でマスターされている、Sun Cluster HA for NFS エクスポートされたファイルシステムの NFS クライアントになることはできません。このような Sun Cluster HA for NFS のクロスマウントは禁止されています。クラスターノード間でファイルを共有するときは、クラスターファイルシステムを使用してください。
- クラスター上でローカルに動作しているアプリケーションは、NFS 経由でエクスポートされているファイルシステム上にあるファイルをロックしてはなりません。このようなファイルをロックすると、ローカルのブロック (flock(3UCB) や fcntl(2) など) によって、ロックマネージャ (lockd) が再起動できなくなる可能性があります。再起動中、リモートクライアントの再要求によって、ブロックされているローカルのプロセスがロックされる可能性があります。これにより、予期せぬ動作が発生する可能性があります。
- Sun Cluster HA for NFS では、すべての NFS クライアントがハードマウントされている必要があります。
- Sun Cluster HA for NFS には、ネットワークリソースのホスト名エイリアスは使用しないでください。クラスターファイルシステムをマウントする NFS クライアントがホスト名エイリアスを使用すると、statd のロック復旧問題が発生する可能性

があります。

- Sun Cluster 3.1 ソフトウェアは Secure NFS または Kerberos with NFS の使用、特に、share_nfs(1M) サブシステムへの secure と kerberos オプションをサポートしません。しかし、Sun Cluster 3.1 ソフトウェアは、クラスタ上の /etc/system ファイルに set nfssrv:nfs_portmon=1 というエントリを追加することによって、NFS のセキュアポートの使用をサポートします。

Sun Cluster HA for SAP liveCache

NIS エントリはファイルが使用できない場合にだけ使用されるので、Sun Cluster HA for SAP liveCache を実行しているクラスタ内のネームサービス向けに NIS を使用しないでください。

この制限に関連する nssswitch.conf パスワード要件の手順に関する情報については、『Sun Cluster 3.1 Data Service for SAP liveCache ガイド』の「ノードとディスクの準備」を参照してください。

インストールの問題とバグ

インストールのガイドライン

Solaris と Sun Cluster のインストールを開始する前に、すべてのデータサービスの条件を確認します。このような条件を確認していないと、インストールプロセスを正しく実行することができず、Solaris と Sun Cluster ソフトウェアの再インストールが必要になる場合があります。

たとえば、Oracle Parallel Server/Real Application Clusters の Oracle Parallel Fail Safe/Real Application Clusters Guard オプションは、クラスタ内で使用するホスト名/ノード名に対して特別な条件があります。Sun Cluster ソフトウェアをインストールした後にホスト名は変更できないため、このような必要条件は Sun Cluster ソフトウェアをインストールする前に調整しておく必要があります。ホスト名/ノード名に対する特別な条件の詳細については、Oracle Parallel Fail Safe/Real Application Clusters Guard のマニュアルを参照してください。

passwd に関する Sun Cluster HA for liveCache nsswitch.conf 要件によって NIS が使用できなくなる (4904975)

NIS エントリはファイルが使用できない場合だけ使用されるので、liveCache を実行するクラスタでは NIS を使用できません。詳細については、13 ページの「Sun Cluster HA for SAP liveCache」の節を参照してください。

管理実行時の問題とバグ

SCI インターコネク트가無効の場合 HA Oracle インスタンスを開始できない (4823212)

クラスタノードの SCI クラスターインターコネク트가 `scconf -c -A` コマンドを使って無効にされた場合、Oracle インスタンスを開始できません。

HA Oracle Stop メソッドのタイムアウト (4644289)

Solaris 9 を実行している場合は、ネットワーク障害が発生時にデータサービスが正常に開始および停止するよう、`oracle_server` または `oracle_listener` リソースのプライマリとなることのできる各ノード上の `/etc/nsswitch.conf` 構成ファイル内に以下のエントリを入力します。

```
passwd: files
groups: files
publickey: files
project: files
```

Sun Cluster HA for Oracle データサービスは、データベースの開始および停止にスーパーユーザーコマンドの `su (1M)` を使用します。クラスタノードのパブリックネットワークに障害が発生すると、ネットワークサービスが使用不能になることがあります。上記のエントリを追加すると、`su` コマンドは NIS/NIS+ ネームサービスを参照しないようになります。

SAP liveCache Stop メソッドのタイムアウト (4836272)

Solaris 9 を実行している場合は、ネットワーク障害が発生時にデータサービスが正常に開始および停止するよう、liveCache リソースのプライマリとなることのできる各ノード上の `/etc/nsswitch.conf` 構成ファイル内の `publickey` データベースに以下のエントリの 1 つを入力します。

```
publickey:  
publickey: files  
publickey: files [NOTFOUND=return] nis  
publickey: files [NOTFOUND=return] nisplus
```

Sun Cluster HA for SAP liveCache データサービスは、liveCache の開始および停止に `dbmcli` コマンドを使用します。クラスタノードのパブリックネットワークに障害が発生すると、ネットワークサービスが使用不能になることがあります。『*Sun Cluster 3.1 Data Service for SAP liveCache ガイド*』に説明があるアップグレードに加えて上記のエントリの 1 つを追加すると、`su` コマンドおよび `dbmcli` コマンドは NIS/NIS+ ネームサービスを参照しなくなります。

HA Oracle リスナー検証のタイムアウト (4900140)

負荷の高いシステムでは、Oracle リスナー検証がタイムアウトする場合があります。Oracle リスナーのタイムアウトを回避するには、`Thorough_probe_interval` 拡張プロパティの値を増やします。Oracle リスナー検証のタイムアウト値は、`Thorough_probe_interval` 拡張プロパティの値に左右されます。Oracle リスナー検証のタイムアウト値をこれと独立して設定することはできません。

HA-Siebel が障害が発生した Siebel コンポーネントを自動で再起動できない (4722288)

Sun Cluster HA-Siebel エージェントが個々の Siebel コンポーネントを監視しません。Siebel コンポーネントの障害が検出された場合、`syslog` には警告メッセージしか記録されません。

これに対処するには、コマンド `scswitch -R -h node -g resource_group` を使用してコンポーネントがオフラインの Siebel サーバーリソースグループを再起動します。

xserver svc start が xserver が使用できないことを起動時に報告する (4738554)

xserver は完全に立ち上がって実行されるまで使用可能とみなされないため、SAP xserver の起動中に「SAP xserver is not available」というメッセージが出力されません。

SAP xserver の起動中はこのメッセージを無視してください。

xserver リソースをフェイルオーバーリソースとして構成できない (4836248)

xserver リソースをフェイルオーバーリソースとして構成しないでください。xserver がフェイルオーバーリソースとして構成されていると Sun Cluster HA for SAP liveCache データサービスは正常にフェイルオーバーできません。

Monitor Uri List を使用するには、Type_version を 4 に設定する (4924147)

Sun Cluster HA for Apache と Sun Cluster HA for Sun ONE Web Server の Monitor Uri List 拡張プロパティを使用するには、Type_version プロパティを 4 に設定してください。

リソースの Type_version プロパティはいつでも 4 にアップグレードできます。リソースタイプのアップグレード方法については、『Sun Cluster 3.1 データサービスの計画と管理』の「リソースタイプの更新」を参照してください。

su コマンドがプロジェクト識別子をリセットする (4868654)

一部のデータサービスは su コマンドを実行して、ユーザー識別子 (ID) を特定のユーザーに設定します。一方 Solaris 9 オペレーティング環境では、su コマンドはプロジェクト識別子を default にリセットします。この動作は、RG_project_name システムプロパティまたは Resource_project_name システムプロパティによるプロジェクト識別子の設定を無効にします。

常に適切なプロジェクト名を確実に使用するために、ユーザーの環境ファイル内にプロジェクト名を設定してください。ユーザーの環境ファイル内にプロジェクト名を設定する方法の 1 つは、以下の行をユーザーの .cshrc ファイルに追加することです。

```
/usr/bin/newtask -p project-name -c $$
```

project-name は、使用されるプロジェクト名です。

パッチと必須ファームウェアのレベル

Sun Cluster 構成のパッチに関する情報を以下に示します。

注 – Sun Cluster 製品に必要なパッチを確認してダウンロードするためには、SunSolve™ ユーザーとして登録済みでなければなりません。SunSolve アカウントをまだ入手していない場合は、Sun のサービス担当者またはセールスエンジニアに問い合わせるか、あるいは <http://sunsolve.sun.com> でオンライン登録を行なってください。

PatchPro

PatchPro は、Sun Cluster ソフトウェアのインストールまたは保守に必要なパッチの選択とダウンロードを簡易化するパッチ管理ツールです。PatchPro には、パッチのインストールを簡易化する Sun Cluster 固有の Interactive Mode ツールと、最新のパッチセットにより構成の保守を行う Expert Mode ツールが付属しています。Expert Mode は、特に、高可用性やセキュリティのパッチだけではなく、最新のパッチをすべて入手する場合に便利です。

Sun Cluster ソフトウェア用の PatchPro ツールにアクセスするには、<http://www.sun.com/PatchPro/> にアクセスし、「Sun Cluster」から「Interactive Mode」または「Expert Mode」を選択します。クラスタ構成を記述し、パッチをダウンロードする方法については、PatchPro ツールの指示に従ってください。

SunSolve Online

SunSolve™ Online Web サイトには、サン製品のパッチやソフトウェア、ファームウェアに関する最新情報が常時掲載されています。現在サポートされるソフトウェア、ファームウェア、およびパッチの最新のリリースについては、SunSolve Online サイト (<http://sunsolve.sun.com>) にアクセスしてください。

Sun Cluster 3.1 のパッチ情報は、Info Docs を使用して見つけることができます。Info Docs を表示するには、SunSolve にログインし、メインページの最上部から「Simple Search」にアクセスします。次に、「Simple Search」ページで「Info Docs」ボックスをクリックし、検索条件ボックスに **Sun Cluster 3.1** と入力します。以上の操作で、Sun Cluster 3.1 ソフトウェアの Info Docs ページが表示されます。

Sun Cluster 3.1 ソフトウェアをインストールしたり、クラスタコンポーネント (Solaris オペレーティング環境、Sun Cluster ソフトウェア、ボリューム管理ソフトウェア、データサービスソフトウェア、ディスクハードウェア) にパッチを適用する前に、Info Docs 情報と、パッチに付随する README ファイルをよく読んでください。クラスタが適切に動作するためには、すべてのクラスタノードが同じパッチレベルになっていなければなりません。

特定のパッチの手順とパッチ管理のヒントについては、『Sun Cluster 3.1 10/03 システム管理ガイド』の「Sun Cluster ソフトウェアとファームウェアのパッチ」を参照してください。

サポートされなくなった機能

HAStorage

HAStorage は、今後の Sun Cluster ソフトウェアでサポートされなくなる可能性があります。HAStoragePlus は HAStorage とほぼ同等の機能を提供します。クラスタファイルシステムまたはデバイスグループの使用時に HAStorage から HAStoragePlus にアップグレードするには、『Sun Cluster 3.1 データサービスの計画と管理』の「HAStorage から HAStoragePlus へのアップグレード」を参照してください。

Sun Cluster 3.1 Data Services 10/03 ソフトウェアの地域対応

以下の地域対応パッケージが、Data Services CD-ROM により提供されています。Sun Cluster 3.1 をインストール、あるいは Sun Cluster 3.1 へアップグレードすると、ユーザーが選択したデータサービスに現地語版パッケージが自動的にインストールされます。

言語	パッケージ名	パッケージの説明
フランス語	SUNWfscapc	フランス語版 Sun Cluster Apache Web Server コンポーネント
	SUNWfscbv	フランス語版 Sun Cluster BV Server コンポーネント
	SUNWfscdns	フランス語版 Sun Cluster Domain Name Server コンポーネント
	SUNWfscht	フランス語版 Sun Cluster Sun ONE Web Server コンポーネント
	SUNWfsclic	フランス語版 SAP liveCache 向け Sun Cluster リソースタイプ
	SUNWfscnb	フランス語版 netbackup_master サーバー向け Sun Cluster リソースタイプ
	SUNWfscnfs	フランス語版 Sun Cluster NFS Server コンポーネント
	SUNWfscnsl	フランス語版 Sun Cluster Sun ONE Directory Server コンポーネント
	SUNWfscor	フランス語版 Sun Cluster HA Oracle データサービス
	SUNWfscs1as	フランス語版 Sun Cluster HA Sun ONE Application Server データサービス
	SUNWfscs1mq	フランス語版 Sun Cluster HA Sun ONE Message Queue データサービス
	SUNWfscsap	フランス語版 Sun Cluster SAP R/3 コンポーネント
	SUNWfscsbl	フランス語版 Siebel ゲートウェイおよび Siebel サーバー向け Sun Cluster リソースタイプ
	SUNWfscsyb	フランス語版 Sun Cluster HA Sybase データサービス
	SUNWfscwls	フランス語版 Sun Cluster BEA WebLogic Server コンポーネント

言語	パッケージ名	パッケージの説明
日本語	SUNWjscapc	日本語版 Sun Cluster Apache Web Server コンポーネント
	SUNWjscbv	日本語版 Sun Cluster BV Server コンポーネント
	SUNWjscdns	日本語版 Sun Cluster Domain Name Server コンポーネント
	SUNWjschtt	日本語版 Sun Cluster Sun ONE Web Server コンポーネント
	SUNWjsc1c	日本語版 SAP liveCache向け Sun Cluster リソースタイプ
	SUNWjscnb	日本語版 netbackup_master サーバー向け Sun Cluster リソースタイプ
	SUNWjscnfs	日本語版 Sun Cluster NFS Server コンポーネント
	SUNWjscns1	日本語版 Sun Cluster Sun ONE Directory Server コンポーネント
	SUNWjscor	日本語版 Sun Cluster HA Oracle データサービス
	SUNWjscs1as	日本語版 Sun Cluster HA Sun ONE Application Server データサービス
	SUNWjscs1mq	日本語版 Sun Cluster HA Sun ONE Message Queue データサービス
	SUNWjscsap	日本語版 Sun Cluster SAP R/3 コンポーネント
	SUNWjscsbl	日本語版 Siebel ゲートウェイおよび Siebel サーバー向け Sun Cluster リソースタイプ
	SUNWjscsyb	日本語版 Sun Cluster HA Sybase データサービス
	SUNWjscwls	日本語版 Sun Cluster BEA WebLogic Server コンポーネント

Sun Cluster 3.1 Data Services 10/03 のマニュアル

PDF および HTML 形式の Sun Cluster 3.1 Data Services 10/03 のユーザーマニュアル一式が Sun Cluster Agents CD-ROM に収録されています。Sun Cluster 3.1 のマニュアルを表示する上で AnswerBook2™ サーバーソフトウェアは必要ありません。詳細は、どちらか一方の CD-ROM を開き、最上位ディレクトリに入っている

index.html ファイルを参照してください。この index.html ファイルは、ディスクから PDF 形式と HTML 形式のマニュアルを直接読んだり、マニュアルパッケージをインストールする方法を表示したりするためのものです。

注 – Sun Cluster のマニュアルパッケージをインストールする前に、SUNWsdocs パッケージをインストールする必要があります。SUNWsdocs パッケージは pkgadd を使用して Sun Cluster CD-ROM の SunCluster_3.1/Sol_N/Packages/ ディレクトリまたは Sun Cluster Agents CD-ROM の components/SunCluster_Docs_3.1/Sol_N/Packages/ ディレクトリからインストールできます。ここで、N は Solaris 8 をあらわす 8 または Solaris 9 を表す 9 です。Solaris 9 Documentation CD からインストールプログラムを実行する場合は、SUNWsdocs パッケージが自動的にインストールされます。

日本語のマニュアルは docs.sun.com を参照してください。Sun Cluster 3.1 のマニュアルセットには次のマニュアルコレクションが含まれています。

- Sun Cluster 3.1 Software Collection。このマニュアルコレクションには、以下のマニュアルが含まれます。

Sun Cluster 3.1 10/03 の概念

Sun Cluster 3.1 10/03 データサービス開発ガイド

Sun Cluster 3.1 10/03 Error Messages Guide

Sun Cluster 3.1 10/03 ソフトウェアのインストール

Sun Cluster 3.1 10/03 のシステム管理

『*Sun Cluster 3.1 10/03 Reference Manual*』

- Sun Cluster 3.x Hardware Administration Collection。このマニュアルコレクションには、以下のマニュアルが含まれます。

『*Sun Cluster 3.x Hardware Administration Manual*』

『*Sun Cluster 3.x With Sun StorEdge 3310 Array Manual*』

『*Sun Cluster 3.x With Sun StorEdge 3510 FC Array Manual*』

『*Sun Cluster 3.x With Sun StorEdge 3900 or 6900 Series System Manual*』

『*Sun Cluster 3.x With Sun StorEdge 6120 Array Manual*』

『*Sun Cluster 3.x With Sun StorEdge 6320 System Manual*』

『*Sun Cluster 3.x With Sun StorEdge 9900 Series Storage Device Manual*』

『*Sun Cluster 3.x With Sun StorEdge A1000 or Netra st A1000 Array Manual*』

『*Sun Cluster 3.x With Sun StorEdge A3500/A3500FC System Manual*』

『*Sun Cluster 3.x With Sun StorEdge A5x00 Array Manual*』

『*Sun Cluster 3.x With Sun StorEdge D1000 or Netra st D1000 Disk Array Manual*』

『*Sun Cluster 3.x With Sun StorEdge D2 Array Manual*』

『*Sun Cluster 3.x With Sun StorEdge MultiPack Enclosure Manual*』

『Sun Cluster 3.x With Sun StorEdge Netra D130 or StorEdge S1 Enclosure Manual』

『Sun Cluster 3.x With Sun StorEdge T3 or T3+ Array Partner-Group Configuration Manual』

『Sun Cluster 3.x With Sun StorEdge T3 or T3+ Array Single-Controller Configuration Manual』

- Sun Cluster 3.1 Data Services Collection。このマニュアルコレクションには、以下のマニュアルが含まれます。

Sun Cluster 3.1 データサービスの計画と管理

Sun Cluster 3.1 Data Service for Apache ガイド

Sun Cluster 3.1 Data Service for Apache Tomcat ガイド

Sun Cluster 3.1 Data Service for BroadVision One-To-One Enterprise ガイド

Sun Cluster 3.1 データサービス (DHCP 編)

Sun Cluster 3.1 Data Service for Domain Name Service (DNS) ガイド

Sun Cluster 3.1 Data Service for MySQL ガイド

Sun Cluster 3.1 Data Service for Netbackup ガイド

Sun Cluster 3.1 Data Service for Network File System (NFS) ガイド

Sun Cluster 3.1 Data Service for Oracle E-Business Suite ガイド

Sun Cluster 3.1 Data Service for Oracle ガイド

Sun Cluster 3.1 Data Service for Oracle Parallel Server/Real Application Clusters ガイド

Sun Cluster 3.1 Data Service for SAP ガイド

Sun Cluster 3.1 Data Service for SAP liveCache ガイド

Sun Cluster 3.1 Data Service for SWIFTAlliance アクセスガイド

Sun Cluster 3.1 データサービス (Samba 編)

Sun Cluster 3.1 Data Service for Siebel ガイド

Sun Cluster 3.1 Data Service for Sun ONE Application Server ガイド

Sun Cluster 3.1 Data Service for Sun ONE Directory Server ガイド

Sun Cluster 3.1 Data Service for Sun ONE Message Queue ガイド

Sun Cluster 3.1 Data Service for Sun ONE Web Server ガイド

Sun Cluster 3.1 Data Service for Sybase ASE ガイド

Sun Cluster 3.1 Data Service for WebLogic Server ガイド

Sun Cluster 3.1 データサービス (WebSphere MQ 編)

『Sun Cluster 3.1 データサービス (WebSphere MQ Integrator 編)』

また、Sun Cluster のマニュアルは docs.sun.comSM の Web サイトから参照することもできます。次の Web サイトを利用すれば、docs.sun.com アーカイブをブラウズしたり、本のタイトルやテーマを検索できます。

<http://docs.sun.com>

マニュアルの問題点

この節では、すでに判明しているマニュアル、オンラインヘルプ、またはマニュアルページの誤りや記載漏れ、およびこれらの問題を修正するための手順を説明します。

Sun Cluster 3.1 Data Service for Oracle Parallel Server/Real Application Clusters ガイド

この節では、『*Sun Cluster 3.1 Data Service for Oracle Parallel Server/Real Application Clusters* ガイド』の誤りや記載漏れについて説明します。

クラスタファイルシステムの使用要件

「クラスタファイルシステムを使用するための要件」という節には、クラスタファイルシステム上にデータファイルを保存できるという間違っただ記述があります。クラスタファイルシステムにはデータファイルを保存してはいけません。したがって、この節のデータファイルに関する説明はすべて無視してください。

クラスタファイルシステム上で Oracle Parallel Server/Real Application Clusters ソフトウェアと使用するためのノード固有のファイルとディレクトリの作成

Oracle ソフトウェアがクラスタファイルシステムにインストールされると、すべてのクラスタノードは `ORACLE_HOME` 環境変数が指定するディレクトリ内のすべてのファイルにアクセスできるようになります。

インストールでは、Oracle ファイルまたはディレクトリによってノード固有の情報を保持する必要がある場合があります。ノードのローカルファイルシステム上のファイルまたはディレクトリを対象とするシンボリックリンクを使用すると、この要件を満たせません。このようなファイルシステムは、クラスタファイルシステムの一部ではありません。

シンボリックリンクをこの目的で使用するには、ローカルファイルシステム上の領域を割り当てる必要があります。Oracle アプリケーションにこの領域内のファイルへのシンボリックリンクを作成させるには、アプリケーションがこの領域内のファイルにアクセスできなければなりません。シンボリックリンクはクラスタファイルシステム上にあるので、すべてのノードからのリンクへの参照はすべて同じです。したがって、すべてのノードがローカルファイルシステムの領域に対して同じ名前空間を持つ必要があります。

▼ クラスタファイルシステム上で *Oracle Parallel Server/Real Application Clusters* ソフトウェアと使用するためのノード固有のディレクトリの作成方法

ノード固有の情報を保持するには、各ディレクトリで次の手順を実行します。ノード固有の情報を保持するには、一般的に以下のディレクトリが必要です。

- \$ORACLE_HOME/network/agent
- \$ORACLE_HOME/network/log
- \$ORACLE_HOME/network/trace
- \$ORACLE_HOME/srvm/log
- \$ORACLE_HOME/apache

ノード固有の情報の保持に必要な場合がある他のディレクトリについては、Oracle のマニュアルを参照してください。

1. 各クラスタノードでノード固有の情報を保持するローカルディレクトリを作成します。

```
# mkdir -p local-dir
```

-p 最初に存在しない親ディレクトリを作成することを指定します。

local-dir 作成するディレクトリのフルパス名を指定します。

2. 各クラスタノードでノード固有の情報を保持する広域ディレクトリのローカルコピーを作成します。

```
# cp -pr global-dir local-dir-parent
```

-p 所有者、グループ、アクセス権モード、変更時間、アクセス時間、およびアクセス制御リストを保持することを指定します。

-r ディレクトリおよびサブディレクトリとそのファイルを含むディレクトリ内のすべてのファイルをコピーすることを指定します。

global-dir コピーする広域ディレクトリのフルパスを指定します。このディレクトリは、ORACLE_HOME 環境変数が指定するディレクトリの下のクラスタファイルシステムに存在します。

local-dir-parent ローカルコピーを格納するローカルノードのディレクトリを指定します。このディレクトリは、手順 1 で作成したディレクトリの親ディレクトリです。

3. 手順 2 でコピーした広域ディレクトリを広域ディレクトリのローカルコピーへのシンボリックリンクと交換します。

- a. クラスタノードから手順 2 でコピーした広域ディレクトリを削除します。

```
# rm -r global-dir
```

`-r` ディレクトリおよびサブディレクトリとそのファイルを含むディレクトリ内のすべてのファイルを削除することを指定します。

`global-dir` 削除する広域ディレクトリのファイル名とフルパスを指定します。このディレクトリは、手順 2 でコピーした広域ディレクトリです。

- b. クラスタノードで、ディレクトリのローカルコピーから手順 a で削除した広域ディレクトリへのシンボリックリンクを作成します。

```
# ln -s local-dir global-dir
```

`-s` リンクがシンボリックリンクであることを指定します。

`local-dir` 手順 1 で作成したローカルディレクトリがリンクのソースであることを指定します。

`global-dir` 手順 a で削除した広域ディレクトリがリンクのターゲットであることを指定します。

例 1-1 ノード固有のディレクトリの作成

この例では、ノード固有のディレクトリを 2 ノードクラスタに作成するために必要な操作手順を示します。このクラスタは以下のように構成されます。

- `ORACLE_HOME` 環境変数は `/global/oracle` ディレクトリを指定します。
- 各ノードのローカルファイルシステムは、`/local` ディレクトリの下にあります。

以下の操作が各ノードで実行されます。

1. 必要なディレクトリをローカルファイルシステムに作成するには、以下のコマンドを実行します。

```
# mkdir -p /local/oracle/network/agent
# mkdir -p /local/oracle/network/log
# mkdir -p /local/oracle/network/trace
# mkdir -p /local/oracle/srvm/log
# mkdir -p /local/oracle/apache
```

2. ノード固有の情報を保持する広域ディレクトリのローカルコピーを作成するには、以下のコマンドを実行します。

```
# cp -pr $ORACLE_HOME/network/agent /local/oracle/network/.
# cp -pr $ORACLE_HOME/network/log /local/oracle/network/.
# cp -pr $ORACLE_HOME/network/trace /local/oracle/network/.
# cp -pr $ORACLE_HOME/srvm/log /local/oracle/srvm/.
# cp -pr $ORACLE_HOME/apache /local/oracle/.
```

例 1-1 ノード固有のディレクトリの作成 (続き)

以下の操作が 1 台のノードで実行されます。

1. 広域ディレクトリを削除するには、以下のコマンドを実行します。

```
# rm -r $ORACLE_HOME/network/agent
# rm -r $ORACLE_HOME/network/log
# rm -r $ORACLE_HOME/network/trace
# rm -r $ORACLE_HOME/srvm/log
# rm -r $ORACLE_HOME/apache
```

2. ローカルディレクトリから対応する広域ディレクトリへのシンボリックリンクを作成するには、以下のコマンドを実行します。

```
# ln -s /local/oracle/network/agent $ORACLE_HOME/network/agent
# ln -s /local/oracle/network/log $ORACLE_HOME/network/log
# ln -s /local/oracle/network/trace $ORACLE_HOME/network/trace
# ln -s /local/oracle/srvm/log $ORACLE_HOME/srvm/log
# ln -s /local/oracle/apache $ORACLE_HOME/apache
```

▼ クラスタファイルシステム上の *Oracle Parallel Server/Real Application Clusters* ソフトウェアと使用するためのノード固有のファイルの作成方法

ノード固有の情報を保持するには、各ファイルで次の手順を実行します。ノード固有の情報を保持するには、一般的に以下のファイルが必要です。

- \$ORACLE_HOME /network/admin/snmp_ro.ora
- \$ORACLE_HOME /network/admin/snmp_rw.ora

ノード固有の情報の保持に必要な場合がある他のファイルについては、Oracle のマニュアルを参照してください。

1. 各クラスタノードでノード固有の情報を保持するファイルを格納するローカルディレクトリを作成します。

```
# mkdir -p local-dir
```

-p 最初に存在しない親ディレクトリを作成することを指定します。

local-dir 作成するディレクトリのフルパス名を指定します。

2. 各クラスタノードでノード固有の情報を保持する広域ファイルのローカルコピーを作成します。

```
# cp -p global-file local-dir
```

-p 所有者、グループ、アクセス権モード、変更時間、アクセス時間、およびアクセス制御リストを保持することを指定します。

global-file コピーする広域ファイルのファイル名とフルパスを指定します。このファイルは、ORACLE_HOME 環境変数が指定するディレクトリの下にクラスタファイルシステムにインストールされています。

local-dir ファイルのローカルコピーを格納するディレクトリを指定します。このディレクトリは、手順 1 で作成したディレクトリです。

3. 手順 2 でコピーした広域ファイルとファイルのローカルコピーへのシンボリックリンクを交換します。

a. クラスタノードから手順 2 でコピーした広域ファイルを削除します。

```
# rm global-file
```

global-file 削除する広域ファイルのファイル名とフルパスを指定します。このファイルは、手順 2 でコピーした広域ファイルです。

b. クラスタノードで、ファイルのローカルコピーから手順 a で削除した広域ファイルのディレクトリへのシンボリックリンクを作成します。

```
# ln -s local-file global-dir
```

-s リンクがシンボリックリンクであることを指定します。

local-file 手順 2 でコピーしたファイルがリンクのソースであることを指定します。

global-dir 手順 a でファイルの広域バージョンを削除したディレクトリがリンクのターゲットであることを指定します。

例 1-2 ノード固有のファイルの作成

この例では、ノード固有のファイルを 2 ノードクラスタに作成するために必要な操作手順を示します。このクラスタは以下のように構成されます。

- ORACLE_HOME 環境変数は /global/oracle ディレクトリを指定します。
- 各ノードのローカルファイルシステムは、/local ディレクトリの下にあります。

以下の操作が各ノードで実行されます。

1. ノード固有の情報を保持するファイルを格納するローカルディレクトリを作成するには、以下のコマンドを実行します。

```
# mkdir -p /local/oracle/network/admin
```

2. ノード固有の情報を保持する広域ファイルのローカルコピーを作成するには、以下のコマンドを実行します。

```
# cp -p $ORACLE_HOME/network/admin/snmp_ro.ora \  
/local/oracle/network/admin/.
```

例 1-2 ノード固有のファイルの作成 (続き)

```
# cp -p $ORACLE_HOME/network/admin/snmp_rw.ora \  
/local/oracle/network/admin/.
```

以下の操作が 1 台のノードで実行されます。

1. 広域ファイルを削除するには、以下のコマンドを実行します。

```
# rm $ORACLE_HOME/network/admin/snmp_ro.ora  
# rm $ORACLE_HOME/network/admin/snmp_rw.ora
```

2. ファイルのローカルコピーから対応する広域ファイルへのシンボリックリンクを作成するには、以下のコマンドを実行します。

```
# ln -s /local/oracle/network/admin/snmp_ro.ora \  
$ORACLE_HOME/network/admin/snmp_ro.ora  
# ln -s /local/oracle/network/admin/snmp_rw.ora \  
$ORACLE_HOME/network/admin/snmp_rw.ora
```

Sun Cluster 3.1 Data Service for Oracle E-Business Suite ガイド

この節では、『*Sun Cluster 3.1 Data Service for Oracle E-Business Suite* ガイド』の誤りや記載漏れについて説明します。

Sun Cluster HA for Oracle E-Business Suite をフェイルオーバーサービスとして登録および構成する方法

「フェイルオーバーサービスとしての Sun Cluster HA for Oracle E-Business Suite の登録および構成方法」の手順 13 は正しくありません。以下に正しい文章を示します。

13. **Oracle E-Business Suite Concurrent Manager Server** に対応するリソースを作成します。

```
# grep PROD.COMNTOP /var/tmp/config.txt  
PROD.COMNTOP=/global/mnt10/d01/oracle/prodcomm <- CON_COMNTOP  
#  
# grep PROD.DBS_ORA806= /var/tmp/config.txt  
PROD.DBS_ORA806=/global/mnt10/d01/oracle/prodora/8.0.6 <- ORACLE_HOME
```

この手順に続く例も正しくありません。以下に正しい例を示します。

```
RS=ebs-cmg-res  
RG=ebs-rg  
HAS_RS=ebs-has-res
```

```
LSR_RS=ebs-cmglsr-res
CON_HOST=lhost1
CON_COMNTOPE=/global/mnt10/d01/oracle/prodconn
CON_APPUSER=ebs
APP_SID=PROD
APPS_PASSWD=apps
ORACLE_HOME=/global/mnt10/d01/oracle/prodora/8.0.6
CON_LIMIT=70
MODE=32/Y
```

Sun Cluster 3.1 Data Service 10/03 for Sun ONE Directory Server および Sun ONE Web Server

この節では、『*Sun Cluster 3.1 Data Service for Sun ONE Directory Server* ガイド』および『*Sun Cluster 3.1 Data Service for Sun ONE Web Server* ガイド』の誤りや記載漏れについて説明します。

iPlanet Web Server および iPlanet Directory Server の名称変更

iPlanet Web Server および iPlanet Directory Server の名称が変更されました。新しい名称は Sun ONE Web Server および Sun ONE Directory Server です。データサービス名は現在、Sun Cluster HA for Sun ONE Web Server および Sun Cluster HA for Sun ONE Directory Server です。

Sun Cluster Agents CD-ROM のアプリケーション名は iPlanet Web Server および iPlanet Directory Server のままになっている場合があります。

Sun Cluster 3.1 Data Service 10/03 for SAP liveCache

この節では、『*Sun Cluster 3.1 Data Service for SAP liveCache* ガイド』の誤りや記載漏れについて説明します。

「Sun Cluster HA for SAP liveCache の登録と構成」という節では、SAP xserver はスケラブルリソースとしてのみ構成できることを記述する必要がありました。SAP xserver をフェイルオーバーリソースとして構成すると、SAP liveCache リソースのフェイルオーバーされません。『*Sun Cluster 3.1 Data Service for SAP liveCache* ガイド』の SAP xserver リソースをフェイルオーバーリソースとして構成することに関する記述はすべて無視してください。

「Sun Cluster HA for SAP liveCache の登録と構成」という節には、追加の手順を含める必要があります。手順 10、「SAP xserver リソースが含まれているスケーラブルリソースグループを有効にします。」の後に、以下のテキストを入力して liveCache リソースを登録する必要があります。

```
# scrgadm -a -j livecache-resource -g livecache-resource-group \  
-t SUNW.sap_livecache -x livecache_name=LC-NAME \  
-y resource_dependencies=livecache-storage-resource
```

liveCache リソースの登録後、次の手順である「SAP xserver と liveCache との間にリソースグループの依存関係を設定します。」に進みます。

Sun Cluster 3.1 Data Service 10/03 for WebLogic Server

この節では、『Sun Cluster 3.1 Data Service for WebLogic Server ガイド』の誤りや記載漏れについて説明します。

表「BEAWebLogic Server コンポーネントの保護」では、BEA WebLogic Server データベースが BEA WebLogic Server でサポートされるすべてのデータベースによって保護されており、Sun Cluster 上でサポートされていることを記述する必要があります。またこの表で HTTP サーバーは、BEA WebLogic Server でサポートされるすべての HTTP サーバーによって保護されており、Sun Cluster 上でサポートされていることも記述する必要があります。

Sun Cluster 3.1 Data Service 10/03 for Apache

この節では、『Sun Cluster 3.1 Data Service for Apache ガイド』の誤りや記載漏れについて説明します。

「インストールと構成の計画」という節では、スケーラブル Web リソースにサービスを提供するスケーラブルプロキシの使用についての注は記述するべきではありませんでした。スケーラブルプロキシの使用はサポートされていません。

Sun Cluster HA for Apache データサービスの Monitor Uri List 拡張プロパティを使用する場合は、Type_version プロパティが 4 である必要があります。リソースタイプは Type_version 4 にアップグレードできます。

Sun Cluster 3.1 Data Service 10/03 for Sun ONE Web Server

Sun Cluster HA for Sun ONE Web Server データサービスの `Monitor Uri List` 拡張プロパティを使用する場合は、`Type_version` プロパティが 4 である必要があります。リソースタイプは `Type_version 4` にアップグレードできます。

マニュアルページ

SUNW.wls(5)

このマニュアルページの「関連項目」という節に誤りがあります。『Sun Cluster 3.1 データサービスのインストールと構成』ではなく、『*Sun Cluster 3.1 Data Service for WebLogic Server* ガイド』を参照してください。

新しいエラーメッセージ

この付録には、『*Sun Cluster 3.1 10/03 Error Messages Guide*』にないエラーメッセージの説明を記載します。これらのエラーメッセージは、Sun Cluster ソフトウェアの実行時にコンソール上または `syslog(3)` ファイル内に表示されます。ほとんどのエラーメッセージについて説明と解決方法の提案が記載されています。エラーメッセージに含まれる情報は次のとおりです。

- Message ID

Message ID は、メッセージを一意に識別するための内部で生成された ID です。

- 説明

説明は、発生したエラーの詳しい説明で、エラーの原因の特定に役立つ場合がある背景情報などが含まれます。

- 解決法

解決法は、エラーによって発生した問題から回復するために実行する必要がある作業または手順の提案です。

この章の内容は次のとおりです。

- 34 ページの「Message IDs 100000–199999」
- 36 ページの「Message IDs 200000–299999」
- 39 ページの「Message IDs 300000–399999」
- 42 ページの「Message IDs 400000–499999」
- 45 ページの「Message IDs 500000–599999」
- 48 ページの「Message IDs 600000–699999」
- 51 ページの「Message IDs 700000–799999」
- 55 ページの「Message IDs 800000–899999」
- 58 ページの「Message IDs 900000–999999」

Message IDs 100000–199999

101122 Validate - Couldn't retrieve MySQL version number
説明: Internal error when retrieving MySQL version.

対処方法: Make sure that supported MySQL version is being used.

104005 restart_resource_group - Resource Group restart failed
rc<%s>
説明: As the result of the Broker RDBMS failing or restarting a Resource Group restart was initiated to effectively restart the Broker Queue Manager, however this has failed.

対処方法: Examine the other syslog messages occurring at the same time on the same node, to see if the cause of the problem can be identified. If required turn on debug for the resource. Please refer to the data service documentation to determine how to do this

111804 validate: Host \$Hostname is not found in /etc/hosts but it is required

説明: The hostname \$Hostname is not in the etc hosts file

対処方法: Set the variable Host in the parameter file mentioned in option -N to a of the start, stop and probe command to valid contents.

119069 Waiting for WebSphere MQ Broker Queue Manager
説明: The WebSphere Broker is dependent on the WebSphere MQ Broker Queue manager, which is not available. So the WebSphere Broker will wait until it is available before it is started, or until Start_timeout for the resource occurs.

対処方法: None.

121872 Validate - Samba bin directory %s does not exist

説明: The Samba bin directory does not exist.

対処方法: Check the correct pathname for the Samba bin directory was entered when registering the Samba resource and that the directory exists.

122801 check_mysql - Couldn't retrieve defined databases for %s

説明: The fault monitor can't retrieve all defined databases for the specified instance.

対処方法: Either was MySQL already down or the fault monitor user doesn't have the right permission. The defined fault monitor should have Process-, Select-, Reload- and Shutdown-privileges and for MySQL 4.0.x also Super-privileges. Check also the MySQL logfiles for any other errors.

126077 All WebSphere MQ UserNameServer processes stopped
説明: All WebSphere MQ UserNameServer processes have been successfully stopped.

対処方法: None.

134020 get_resource_dependencies - WebSphere MQ Broker RDBMS resource %s already set
説明: The WebSphere Broker is dependent on a WebSphere MQ Broker Queue Manager, however more than one WebSphere MQ Broker Queue Manager has been defined in the resource's extension property - resource_dependencies.

対処方法: Ensure that only one WebSphere MQ Broker Queue Manager is defined for the resource's extension property - resource_dependencies.

139415 could not kill swa_rpcd
説明: swa_rpcd could not be stopped

対処方法: Verify configuration.

149124 ERROR: probe_mysql Option -F not set
説明: The -F option is missing for probe_mysql command.

対処方法: Add the -F option for probe_mysql command.

156966 Validate - smbconf %s does not exist
説明: The smb.conf file does not exist.

対処方法: Check the correct pathname for the Samba smb.conf file was entered when registering the Samba resource and that the smb.conf file exists.

171565 WebSphere MQ Broker Queue Manager not available
説明: The WebSphere Broker is dependent on a WebSphere MQ Broker Queue Manager, however the WebSphere MQ Broker Queue Manager is currently not available.

対処方法: None, the fault monitor detects that the WebSphere MQ Broker Queue Manager is not available and will stop the WebSphere MQ Broker. After the WebSphere MQ Broker Queue Manager is available again, the fault monitor will restart the WebSphere MQ Broker.

176861 check_broker - sc3inq %s CURDEPTH(%s)

説明: The WebSphere Broker fault monitor checks to see if the message flow was successful, by inquiring on the current queue depth for the output queue within the simple message flow.

対処方法: None, the fault monitor displays the current queue depth until it successfully checks that the simple message flow has worked.

187120 MQSeriesIntegrator2%s exists without an IPC semaphore entry

説明: The WebSphere Broker fault monitor checks to see if MQSeriesIntegrator2BrokerResourceTableLockSemaphore or MQSeriesIntegrator2RetainedPubsTableLockSemaphore exists within /var/mqsi/locks and that their respective semaphore id exists.

対処方法: None, if either MQSeriesIntegrator2%s file exists without an IPC semaphore entry, then the MQSeriesIntegrator2%s file is deleted. This prevents (a) Execution Group termination on startup with BIP2123 and (b) bipbroker termination on startup with BIP2088.

Message IDs 200000–299999

207873 Validate - User ID root is not a member of group mqbrkrs

説明: The WebSphere Broker resource requires that root mqbrkrs is a member of group mqbrkrs.

対処方法: Ensure that root is a member of group mqbrkrs.

211869 validate: Basepath is not set but it is required

説明: The parameter Basepath is not set in the parameter file

対処方法: Set the variable Basepath in the parameter file mentioned in option -N to a of the start, stop and probe command to valid contents.

220824 stop SAA failed rc<>

説明: Failed to stop SAA.

対処方法: Verify if SAA has not been stopped manually outside the cluster.

230326 start_uns - Waiting for WebSphere MQ UserNameServer Queue Manager

説明: The WebSphere UserNameServer is dependent on the WebSphere MQ UserNameServer Queue manager, which is not available. So the WebSphere UserNameServer will wait until it is available before it is started, or until Start_timeout for the resource occurs.

対処方法: None.

251620 Validate - RUN_MODE has to be server

説明: The DHCP resource requires that the /etc/inet/dhcpsvc.conf file has RUN_MODE=SERVER.

対処方法: Ensure that /etc/inet/dhcpsvc.conf has RUN_MODE=SERVER by configuring DHCP appropriately, i.e. as defined within the Sun Cluster 3.0 Data Service for DHCP.

252585 ERROR: stop_mysql Option -U not set

説明: The -U option is missing for stop_mysql command.

対処方法: Add the -U option for stop_mysql command.

261236 Validate - my.cnf %s does not exist

説明: The my.cnf configuration doesn't exist in the defined database directory.

対処方法: Make sure that my.cnf is placed in the defined database directory.

262281 Validate - User %s does not exist

説明: The WebSphere Broker userid does not exist.

対処方法: Ensure the correct WebSphere Broker userid has been setup and was correctly entered when registering the WebSphere Broker resource.

266602 ERROR: stop_mysql Option -G not set

説明: The -G option is missing for stop_mysql command.

対処方法: Add the -G option for stop_mysql command.

267361 check_cmgr - Database connect to %s failed

説明: While probing the Oracle E-Business Suite concurrent manager, a test to connect to the database failed.

対処方法: None, if two successive failures occur the concurrent manager resource will be restarted.

270645 Resource Group %s will be restarted

説明: The WebSphere Broker resource has determined that the WebSphere MQ Broker RDBMS has either failed or has been restarted.

対処方法: None, as the Resource Group will be restarted.

274229 validate_options: \$COMMANDNAME Option -N not set
説明: The option -N of the Apache Tomcat agent command \$COMMANDNAME is not set, \$COMMANDNAME is either start_sctomcat, stop_sctomcat or probe_sctomcat.

対処方法: Look at previous error messages in the syslog.

280505 Validate - Application user <%s> does not exist
説明: The Oracle E-Business Suite applications userid was not found in /etc/passwd.

対処方法: Ensure that a local applications userid is defined on all nodes within the cluster.

291362 Validate - nmbd %s non-existent executable
説明: The Samba executable nmbd either doesn't exist or is not executable.

対処方法: Check the correct pathname for the Samba (s)bin directory was entered when registering the resource and that the program exists and is executable.

291522 Validate - smbd %s non-existent executable
説明: The Samba executable smbd either doesn't exist or is not executable.

対処方法: Check the correct pathname for the Samba (s)bin directory was entered when registering the resource and that the program exists and is executable.

297493 Validate - Applications directory %s does not exist
説明: The Oracle E-Business Suite applications directory does not exist.

対処方法: Check that the correct pathname was entered for the applications directory when registering the resource and that the directory exists.

298625 check_winbind - User <%s> can't be retrieved by the nameservice
説明: The Windows NT userid used by winbind could not be retrieved through the name service.

対処方法: Check that the correct userid was entered when registering the Winbind resource and that the userid exists within the Windows NT domain.

298744 validate: \$Variable is not set in the parameterfile \$Filename but it is required
説明: The variable \$Variable is not set in the parameter file \$Filename.

対処方法: Set the variable in the file \$Filename to a valid contents.

Message IDs 300000–399999

300278 Validate - CON_LIMIT=%s is incorrect, default CON_LIMIT=70 is being used

説明: The value specified for CON_LIMIT is invalid.

対処方法: Either accept the default value of CON_LIMIT=70 or change the value of CON_LIMIT to be less than or equal to 100 when registering the resource.

300598 Validate - Winbind configuration directory %s does not exist

説明: The Winbind configuration directory does not exist.

対処方法: Check that the correct Winbind configuration directory was entered when registering the Winbind resource and that the directory exists.

300956 stopped SAA rc<>

説明: SAA stopped with result code <

対処方法: None ... normal message when SAA gets stopped.

303009 validate: EnvScript \$Filename does not exist but it is required

説明: The environment script \$Filename is set in the parameter file but does not exist.

対処方法: Set the variable EnvScript in the parameter file mentioned in option -N of the start, stop and probe command to a valid contents.

306944 Validate - Only SUNWfiles or SUNWbinfiles are supported

説明: The DHCP resource requires that that the /etc/inet/dhcpsvc.conf file has RESOURCE=SUNWfiles or SUNWbinfiles.

対処方法: Ensure that /etc/inet/dhcpsvc.conf has RESOURCE=SUNWfiles or SUNWbinfiles by configuring DHCP appropriately, i.e. as defined within the Sun Cluster 3.0 Data Service for DHCP.

310640 runmqtrm - %s

説明: The following output was generated from the runmqtrm command.

対処方法: None, if the command was successful, otherwise examine the other syslog messages occurring at the same time on the same node, to see if the cause of the problem can be identified.

311639 check_dhcp - Active interface has changed from %s to %s
説明: The DHCP resource's fault monitor has detected that the active interface has changed.

対処方法: None, the fault monitor will restart the DHCP server.

316019 WebSphere MQ Channel Initiator %s started
説明: The WebSphere MQ Channel Initiator has been started.

対処方法: None.

319873 ERROR: stop_mysql Option -R not set
説明: The -R option is missing for stop_mysql command.

対処方法: Add the -R option for stop_mysql command.

327437 runmqchi - %s
説明: The following output was generated from the runmqchi command.

対処方法: None, if the command was successful, otherwise examine the other syslog messages occurring at the same time on the same node, to see if the cause of the problem can be identified.

333890 ERROR: stop_mysql Option -D not set
説明: The -D option is missing for stop_mysql command.

対処方法: Add the -D option for stop_mysql command.

335316 ERROR: start_mysql Option -H not set
説明: The -H option is missing for start_mysql command.

対処方法: Add the -H option for start_mysql command.

336128 start_winbind - Could not start winbind
説明: The Winbind resource could not start winbind.

対処方法: Examine the other syslog messages occurring at the same time on the same node, to see if the cause of the problem can be identified. If required turn on debug for the resource. Please refer to the data service documentation to determine how to do this.

339206 validate: An invalid option entered or
説明: There is an invalid variable set the parameter file mentioned in option -N to a of the start, stop and probe command or the first character of a

対処方法: Fix the parameter file mentioned in option -N to a of the start, stop and probe command to valid contents

340441 Unexpected - test_rdbms_pid<%s>

説明: The fault monitor found an unexpected error with testing the RDBMS.

対処方法: Examine the other syslog messages occurring at the same time on the same node, to see if the cause of the problem can be identified. If required turn on debug for the resource. Please refer to the data service documentation to determine how to do this

341702 could not start swa_rpcd, aborting

説明: swa_rpcd could not be started.

対処方法: Check configuration of SAA.

357988 set_status - rc<%s> type<%s>

説明: If the call to scha_resource_setstatus returns an error, the resource's fault probe sets the appropriate return code from scha_resource_setstatus call.

対処方法: Examine the other syslog messages occurring at the same time on the same node, to see if the cause of the problem can be identified

382114 start_dhcp - DHCP batch job failed rc<%s>

説明: Whenever the DHCP server has switched over to another node, the DHCP network table is updated via a batch job running pntadm commands. This message is produced if the submission of that batch job fails.

対処方法: Please refer to the pntadm(1M) man page.

382661 WebSphere MQ Broker Queue Manager available

説明: The WebSphere MQ Broker is dependent on the WebSphere MQ Broker Queue Manager. This message simply informs that the WebSphere MQ Broker Queue Manager is available.

対処方法: None.

398643 Validate - nmblookup %s non-existent executable

説明: The Samba resource tries to validate that the nmblookup program exists and is executable.

対処方法: Check the correct pathname for the Samba bin directory was entered when registering the resource and that the program exists and is executable.

Message IDs 400000–499999

404190 Validate - 32|64-bit mode invalid in %s
説明: The bit mode value for MODE is invalid.

対処方法: Ensure that the bit mode value for MODE equals 32 or 64 when registering the resource.

404259 ERROR: probe_mysql Option -H not set
説明: The -H option is missing for probe_mysql command.

対処方法: Add the -H option for probe_mysql command.

404388 Failed to retrieve ip number for host %s
説明: The DHCP resource tries to get the hostname ip address based on the cluster node id but failed.

対処方法: Check that the correct NETWORK parameter was used when registering the DHCP resource and that the correct cluster node id was used.

404924 validate: there are syntactical errors in the
parameterfile \$Filename
説明: The parameter file \$Filename of option -N of the start, stop or probe
command is not a valid ksh script.

対処方法: Correct the file until ksh -n filename exits with 0.

405519 check_samba - Couldn't retrieve faultmonitor-user <%s>
from the nameservice
説明: The Samba resource could not validate that the fault monitor userid exists.

対処方法: Check that the correct fault monitor userid was used when registering the Samba resource and that the userid really exists.

405649 validate: User \$Username does not exist but it is required
説明: The user with the name \$Username does not exist or was not returned by the
name service.

対処方法: Set the variable User in the parameter file mentioned in option -N to a of
the start, stop and probe command to valid contents.

410272 Validate - ORACLE_HOME directory %s does not exist
説明: The Oracle E-Business Suite ORACLE_HOME directory does not exist.

対処方法: Check that the correct pathname was entered for the Oracle Home
directory when registering the resource and that the directory exists.

419384 stop dced failed rc<>

説明: Stop of dce subcomponent failed.

対処方法: Verify configuration.

425328 validate: Return String is not set but it is required

説明: The parameter ReturnString is not set in the parameter file

対処方法: Set the variable ReturnString in the parameter file mentioned in option -N to a of the start, stop and probe command to valid contents.

425366 check_cmfg - FUNDRUN = %s, FNDMAX = %s

説明: While probing the Oracle E-Business Suite concurrent manager, the actual percentage of processes running is below the user defined acceptable limit set by CON_LIMIT when the resource was registered.

対処方法: Determine why the number of actual processes for the concurrent manager is below the limit set by CON_LIMIT. The concurrent manager resource will be restarted.

430357 endmqm - %s

説明: The following output was generated from the endmqm command.

対処方法: None, if the command was successful, otherwise examine the other syslog messages occurring at the same time on the same node, to see if the cause of the problem can be identified.

437837 get_resource_dependencies - WebSphere MQ Broker Queue Manager resource %s already set

説明: The WebSphere MQ Broker resource checks to see if the correct resource dependencies exists, however it appears that there already is a WebSphere MQ Broker Queue manager defined in resource_dependencies when registering the WebSphere MQ Broker resource.

対処方法: Check the resource_dependencies entry when you registered the WebSphere MQ Broker resource.

438199 Validate - Samba configuration directory %s does not exist

説明: The Samba resource could not validate that the Samba configuration directory exists.

対処方法: Check that the correct pathname for the Samba configuration directory was entered when registering the Samba resource and that the configuration directory really exists.

- 450308 check_broker - Main Queue Manager processes not found
説明: The WebSphere MQ Broker checks to see if the main WebSphere MQ processes are available before it performs a simple message flow test. If these processes are not present, the WebSphere MQ Broker fault monitor requests a restart of the broker, as the WebSphere MQ Broker is probably restarting. Furthermore this helps to avoid AMQ8041 messages when the WebSphere MQ Broker is restarting.
- 対処方法: None, the WebSphere MQ Broker will be restarted.
- 454449 ERROR: stop_mysql Option -L not set
説明: The -L option is missing for stop_mysql command.
- 対処方法: Add the -L option for stop_mysql command.
- 456015 Validate - mysqladmin %s non-existent or non-executable
説明: The mysqladmin command doesn't exist or is not executable.
- 対処方法: Make sure that MySQL is installed correctly or right base directory is defined.
- 459848 WebSphere MQ Broker RDBMS available
説明: The WebSphere MQ Broker is dependent on the WebSphere MQ Broker DBMS. This message simple informs that the WebSphere MQ Broker RDBMS is available.
- 対処方法: None.
- 461872 check_cmfg - Actual (%s) FND processes running is below limit (%s)
説明: While probing the Oracle E-Business Suite concurrent manager, the actual percentage of processes running is below the user defined acceptable limit set by CON_LIMIT when the resource was registered.
- 対処方法: Determine why the number of actual processes for the concurrent manager is below the limit set by CON_LIMIT. The concurrent manager resource will be restarted.
- 469892 ERROR: start_mysql Option -B not set
説明: The -B option is missing for start_mysql command.
- 対処方法: Add the -B option for start_mysql command.
- 474576 check_dhcp - The DHCP has died
説明: The DHCP resource's fault monitor has found that the DHCP process has died.
- 対処方法: None, the DHCP resource's fault monitor will request a restart of the DHCP server.

476023 Validate - DHCP is not enabled (DAEMON_ENABLED)

説明: The DHCP resource requires that the /etc/inet/dhcpsvc.conf file has DAEMON_ENABLED=TRUE.

対処方法: Ensure that /etc/inet/dhcpsvc.conf has DAEMON_ENABLED=TRUE by configuring DHCP appropriately, i.e. as defined within the Sun Cluster 3.0 Data Service for DHCP.

479015 Validate - DHCP directory %s does not exist

説明: The DHCP resource could not validate that the DHCP directory defined in the /etc/inet/dhcpsvc.conf file for the PATH variable exists.

対処方法: Ensure that /etc/inet/dhcpsvc.conf has the correct entry for the PATH variable by configuring DHCP appropriately, i.e. as defined within the Sun Cluster 3.0 Data Service for DHCP.

496553 Validate - DHCP config file %s does not exist

説明: The DHCP resource could not validate that /etc/inet/dhcpsvc.conf exists.

対処方法: Ensure that /etc/inet/dhcpsvc.conf exists.

497093 WebSphere MQ Check Broker failed - see reason above

説明: The WebSphere MQ Broker fault monitor has detected a problem, this message is provided simple to highlight that fact.

対処方法: Examine the other syslog messages occurring at the same time on the same node, to see if the cause of the problem can be identified

Message IDs 500000–599999

510280 check_mysql - MySQL slave instance %s is not connected to master %s with MySQL error (%s)

説明: The fault monitor has detected that the MySQL slave instance is not connected to the specified master.

対処方法: Check MySQL logfiles to determine why the slave has been disconnected to the master.

524300 get_server_ip - pntadm failed rc<%s>

説明: The DHCP resource gets the server ip from the DHCP network table using the pntadm command, however this command has failed.

対処方法: Please refer to the pntadm(1M) man page.

527700 stop_chi - WebSphere MQ Channel Initiator %s stopped
説明: The WebSphere MQ Channel Initiator has been stopped.

対処方法: None.

532557 Validate - This version of samba <%s> is not supported with
this dataservice

説明: The Samba resource check to see that an appropriate version of Samba is
being deployed. Versions below v2.2.2 will generate this message.

対処方法: Ensure that the Samba version is equal to or above v2.2.2

538835 ERROR: probe_mysql Option -B not set
説明: The -B option is missing for probe_mysql command.

対処方法: Add the -B option for probe_mysql command.

549875 check_mysql - Couldn't get SHOW SLAVE STATUS for instance
%s (%s)

説明: The fault monitor can't retrieve the MySQL slave status for the specified
instance.

対処方法: Either was MySQL already down or the fault monitor user doesn't have
the right permission. The defined fault monitor should have Process-,Select-,
Reload- and Shutdown-privileges and for MySQL 4.0.x also Super-privileges.
Check also the MySQL logfiles for any other errors.

558184 Validate - MySQL logdirectory for mysqld does not exist
説明: The defined (-L option) logdirectory doesn't exist.

対処方法: Make sure that the defined logdirectory exists.

567783 %s - %s

説明: The first %s refers to the calling program, whereas the second %s represents
the output produced by that program. Typically, these messages are produced by
programs such as strmqm, endmqm, rumqtrm etc.

対処方法: None, if the command was successful, otherwise examine the other syslog
messages occurring at the same time on the same node, to see if the cause of the
problem can be identified.

574421 MQSeriesIntegrator2%s file deleted

説明: The WebSphere Broker fault monitor checks to see if
MQSeriesIntegrator2BrokerResourceTableLockSemaphore or
MQSeriesIntegrator2RetainedPubsTableLockSemaphore exists within
/var/mqsi/locks and that their respective semaphore id exists.

対処方法: None, if either MQSeriesIntegrator2%*s* file exists without an IPC semaphore entry, then the MQSeriesIntegrator2%*s* file is deleted. This prevents (a) Execution Group termination on startup with BIP2123 and (b) bipbroker termination on startup with BIP2088.

578055 stop_mysql - Failed to flush MySQL tables for %*s*
説明: mysqladmin command failed to flush MySQL tables.

対処方法: Either was MySQL already down or the fault monitor user doesn't have the right permission to flush tables. The defined fault monitor should have Process-, Select-, Reload- and Shutdown-privileges and for MySQL 4.0.x also Super-privileges.

589025 ERROR: stop_mysql Option -F not set
説明: The -F option is missing for stop_mysql command.

対処方法: stop_mysql コマンドの -F オプションを追加します。

589689 get_resource_dependencies - Only one WebSphere MQ Broker RDBMS resource dependency can be set
説明: The WebSphere MQ Broker resource checks to see if the correct resource dependencies exists, however it appears that there already is a WebSphere MQ Broker RDBMS defined in resource_dependencies when registering the WebSphere MQ Broker resource.

対処方法: Check the resource_dependencies entry when you registered the WebSphere MQ Broker resource.

592738 Validate - smbclient %*s* non-existent executable
説明: The Samba resource tries to validate that the smbclient exists and is executable.

対処方法: Check the correct pathname for the Samba bin directory was entered when registering the resource and that the program exists and is executable.

595448 Validate - mysqld %*s* non-existent executable
説明: The mysqld command doesn't exist or is not executable.

対処方法: Make sure that MySQL is installed correctly or right base directory is defined.

598483 Waiting for WebSphere MQ Broker RDBMS
説明: The WebSphere MQ Broker is dependent on the WebSphere MQ Broker RDBMS, which is not available. So the WebSphere MQ Broker will wait until it is available before it is started, or until Start_timeout for the resource occurs.

対処方法: None.

Message IDs 600000–699999

600398 validate - file \$FILENAME does not exist

説明: The parameter file of option -N of the start, stop or probe command does not exist.

対処方法: Correct the filename and reregister the data service.

600552 validate: User is not set but it is required

説明: The parameter User is not set in the parameter file

対処方法: Set the variable User in the parameter file mentioned in option -N to a of the start, stop and probe command to valid contents.

601312 Validate - Winbind bin directory %s does not exist

説明: The Winbind resource could not validate that winbind bin directory exists.

対処方法: Check that the correct pathname for the Winbind bin directory was entered when registering the Winbind resource and that the bin directory really exists.

603913 last probe failed, Tomcat considered as unavailable

説明: The last sanity check was unsuccessful, may be out of sessions

対処方法: None required, it is recommended to observe Tomcats number of configured sessions

604642 Validate - winbind is not defined in %s in the passwd section

説明: The Winbind resource could not validate that winbind is defined within the password section of /etc/nsswitch.conf.

対処方法: Ensure that winbind is defined within the password section of /etc/nsswitch.conf.

608780 get_resource_dependencies - Resource_dependencies does not have a Queue Manager resource

説明: The WebSphere Broker is dependent on the WebSphere MQ Broker Queue Manager resource, which is not available. So the WebSphere Broker will terminate.

対処方法: Ensure that the WebSphere MQ Broker Queue Manager resource is defined within resource_dependencies when registering the WebSphere MQ Broker resource.

611103 get_resource_dependencies - Only one WebSphere MQ Broker Queue Manager resource dependency can be set

説明: The WebSphere MQ Broker resource checks to see if the correct resource dependencies exists, however it appears that there already is a WebSphere MQ Broker Queue Manager defined in resource_dependencies when registering the WebSphere MQ Broker resource.

対処方法: Check the resource_dependencies entry when you registered the WebSphere MQ Broker resource.

616858 WebSphere MQ Broker will be restarted

説明: The WebSphere MQ Broker fault monitor has detected a condition that requires that the WebSphere MQ Broker is to be restarted.

対処方法: None, the WebSphere MQ Broker will be restarted.

620125 WebSphere MQ Broker bipservice %s failed

説明: The WebSphere MQ Broker fault monitor has detected that the WebSphere MQ Broker bipservice process has failed.

対処方法: None, the WebSphere MQ Broker will be restarted.

620477 mqsistop - %s

説明: The following output was generated from the mqsistop command.

対処方法: None, if the command was successful, otherwise examine the other syslog messages occurring at the same time on the same node, to see if the cause of the problem can be identified.

622367 start_dhcp - %s %s failed

説明: The DHCP resource has tried to start the DHCP server using in.dhcpd, however this has failed.

対処方法: The DHCP server will be restarted. Examine the other syslog messages occurring at the same time on the same node, to see if the cause of the problem can be identified.

623488 Validate - winbind is not defined in %s in the group section

説明: The Winbind resource could not validate that winbind is defined within the group section of /etc/nsswitch.conf.

対処方法: Ensure that winbind is defined within the group section of /etc/nsswitch.conf.

632788 Validate - User root is not a member of group mqbrkrs

説明: The WebSphere Broker resource requires that root mqbrkrs is a member of group mqbrkrs.

対処方法: Ensure that root is a member of group mqbrkrs.

635839 first probe was unsuccessful, try again in 5 seconds

説明: The first sanity check was unsuccessful, may be out of sessions

対処方法: None required, it is recommended to observe Tomcats number of configured sessions

643722 ERROR: start_mysql Option -U not set

説明: The -U option is missing for start_mysql command.

対処方法: Add the -U option for start_mysql command.

644941 Probe failed, HTTP GET Response Code for %s is %d.

説明: The status code of the response to a HTTP GET probe that indicates the HTTP server has failed. It will be restarted or failed over.

対処方法: This message is informational; no user action is needed.

647559 Validate - Couldn't retrieve Samba version number

説明: The Samba resource tries to validate that an acceptable version of Samba is being deployed, however it was unable to retrieve the Samba version number.

対処方法: Check that Samba has been installed correctly

652173 start_samba - Could not start Samba server %s nmb

説明: The Samba resource could not start the Samba server nmbd process.

対処方法: The Samba resource will be restarted, however examine the other syslog messages occurring at the same time on the same node, to see if the cause of the problem can be identified.

657739 ERROR: start_mysql Option -G not set

説明: The -G option is missing for start_mysql command.

対処方法: Add the -G option for start_mysql command.

667613 start_mysql - myisamchk found errors in some index in %s, perform manual repairs

説明: myisamchk found errors in MyISAM based tables.

対処方法: Consult MySQL documentation when repairing MyISAM tables.

668840 Validate - Couldn't retrieve faultmonitor-user <%s> from the nameservice

説明: The Samba resource could not validate that the fault monitor userid exists.

対処方法: Check that the correct fault monitor userid was used when registering the Samba resource and that the userid really exists.

672337 runmqtsr - %s

説明: The following output was generated from the runmqtsr command.

対処方法: None, if the command was successful, otherwise examine the other syslog messages occurring at the same time on the same node, to see if the cause of the problem can be identified.

693424 Waiting for WebSphere MQ UserNameServer Queue Manager

説明: The WebSphere MQ UserNameServer is dependent on the WebSphere MQ UserNameServer Queue Manager, which is not available. So the WebSphere MQ UserNameServer will wait until it is available before it is started, or until Start_timeout for the resource occurs.

対処方法: None.

693579 stop_mysql - Failed to flush MySQL logfiles for %s

説明: mysqladmin command failed to flush MySQL logfiles.

対処方法: Either was MySQL already down or the fault monitor user doesn't have the right permission to flush logfiles. The defined fault monitor should have Process-,Select-, Reload- and Shutdown-privileges and for MySQL 4.0.x also Super-privileges.

Message IDs 700000–799999

700425 WebSphere MQ Broker RDBMS not available

説明: The WebSphere MQ Broker is dependent on a WebSphere MQ Broker RDBMS, which is currently not available.

対処方法: None, the fault monitor detects that the WebSphere MQ Broker RDBMS is not available and will restart the Resource Group.

708719 check_mysql - mysqld server <%s> not working, failed to connect to MySQL

説明: The fault monitor can't connect to the specified MySQL instance.

対処方法: This is an error message from MySQL fault monitor, no user action is needed.

711010 ERROR: start_mysql Option -R not set

説明: The -R option is missing for start_mysql command.

対処方法: Add the -R option for start_mysql command.

712665 ERROR: probe_mysql Option -U not set
説明: The -U option is missing for probe_mysql command.
対処方法: Add the -U option for probe_mysql command.

717827 error in configuration of SAA
説明: Could not start SAA because of SAA configuration problems.
対処方法: Correct configuration of SAA, try manual start, and stop, re-enable in cluster.

722025 Function: stop_mysql - Sql-command SLAVE STOP returned error (%s)
説明: Couldn't stop slave instance.
対処方法: Examine the returned Sql-status message and consult MySQL documentation.

725027 ERROR: start_mysql Option -D not set
説明: The -D option is missing for start_mysql command.
対処方法: Add the -D option for start_mysql command.

725933 start_samba - Could not start Samba server %s smb daemon
説明: The Samba resource could not start the Samba server smbd process.
対処方法: The Samba resource will be restarted, however examine the other syslog messages occurring at the same time on the same node, to see if the cause of the problem can be identified.

726682 ERROR: probe_mysql Option -G not set
説明: The -G option is missing for probe_mysql command.
対処方法: Add the -G option for probe_mysql command.

728840 get_resource_dependencies - Resource_dependencies does not have a RDBMS resource
説明: The WebSphere MQ Broker is dependent on the WebSphere MQ Broker RDBMS resource, which is not available. So the WebSphere MQ Broker will terminate.
対処方法: Ensure that the WebSphere MQ Broker RDBMS resource is defined within resource_dependencies when registering the WebSphere MQ Broker resource.

731228 validate_options: \$COMMANDNAME Option -G not set
説明: The option -G of the Apache Tomcat agent command \$COMMANDNAME is not set, \$COMMANDNAME is either start_sctomcat, stop_sctomcat or probe_sctomcat.

対処方法: Look at previous error messages in the syslog.

739997 endmqcsv - %s"

説明: The following output was generated from the endmqcsv command.

対処方法: None, if the command was successful, otherwise examine the other syslog messages occurring at the same time on the same node, to see if the cause of the problem can be identified.

741561 Unexpected - test_qmgr_pid<%s>

説明: The WebSphere MQ Broker is dependent on the WebSphere MQ Broker Queue Manager, however an unexpected error was found while checking the WebSphere MQ Broker Queue Manager.

対処方法: Examine the other syslog messages occurring at the same time on the same node, to see if the cause of the problem can be identified.

742807 Ignoring command execution '<command>'

説明: HA-Oracle reads the file specified in USER_ENV property and exports the variables declared in the file. Syntax for declaring the variables is : VARIABLE=VALUE If a command execution is attempted using '<command>', the VARIABLE is ignored.

対処方法: Please check the environment file and correct the syntax errors by removing any entry containing a back-quote (') from it.

747268 strmqcsv - %s

説明: The following output was generated from the strmqcsv command.

対処方法: None, if the command was successful, otherwise examine the other syslog messages occurring at the same time on the same node, to see if the cause of the problem can be identified.

751205 Validate - WebSphere MQ Broker file systems not defined

説明: The WebSphere MQ Broker file systems (/opt/mqsi and /var/mqsi) are not defined.

対処方法: Ensure that the WebSphere MQ Broker file systems are defined correctly.

771151 WebSphere MQ Queue Manager available

説明: The WebSphere MQ Broker is dependent on the WebSphere MQ Broker Queue Manager. This message simply informs that the WebSphere MQ Broker Queue Manager is available.

対処方法: None.

778674 start_mysql - Could not start mysql server for %s
説明: GDS couldn't start this instance of MySQL.
対処方法: Look at previous error messages.

779953 ERROR: probe_mysql Option -R not set
説明: The -R option is missing for probe_mysql command.
対処方法: Add the -R option for probe_mysql command.

782497 Ignoring command execution \$(command)
説明: HA-Oracle reads the file specified in USER_ENV property and exports the variables declared in the file. Syntax for declaring the variables is :
VARIABLE=VALUE If a command execution is attempted using \$(command), the VARIABLE is ignored.
対処方法: Please check the environment file and correct the syntax errors by removing any entry containing a \$(command) construct from it.

784499 validate_options: \$COMMANDNAME Option -R not set
説明: The option -R of the Apache Tomcat agent command \$COMMANDNAME is not set, \$COMMANDNAME is either start_sctomcat, stop_sctomcat or probe_sctomcat.
対処方法: Look at previous error messages in the syslog.

787938 stopped dce rc<>
説明: Informational message stop of dced.
対処方法: None

789392 Validate - MySQL basedirectory %s does not exist
説明: The defined basedirectory (-B option) doesn't exist.
対処方法: Make sure that defined basedirectory exists.

792848 ended host rename
説明: Housekeeping has been performed after a successful failover.
対処方法: None

793970 ERROR: probe_mysql Option -D not set
説明: The -D option is missing for probe_mysql command.
対処方法: Add the -D option for probe_mysql command.

795360 Validate - User ID %s does not exist
説明: The WebSphere MQ UserNameServer resource could not validate that the UserNameServer userid exists.

対処方法: Ensure that the UserNameServer userid has been correctly entered when registering the WebSphere MQ UserNameServer resource and that the userid really exists.

796592 Monitor stopped due to setup error or custom action.

説明: Fault monitor detected an error in the setup or an error specified in the custom action file for which the specified action was to stop the fault monitor. While the fault monitor remains offline, no other errors will be detected or acted upon.

対処方法: Please correct the condition which lead to the error. The information about this error would be logged together with this message.

Message IDs 800000–899999

806128 Ignoring PATH set in environment file %s

説明: HA-Oracle reads the file specified in USER_ENV property and exports the variables declared in the file. If PATH variable is attempted to be set in the USER_ENV file, it gets ignored.

対処方法: Please check the environment file and remove any PATH variable setting from it.

815147 Validate - Faultmonitor-resource <%s> does not exist

説明: The Samba resource could not validate that the fault monitor resource exists.

対処方法: Check that the Samba instance's smb.conf file has the fault monitor resource scmondird defined. Please refer to the data service documentation to determine how to do this.

821789 Validate - User %s is not a member of group mqbrkrs

説明: The WebSphere MQ Broker userid is not a member of the group mqbrkrs.

対処方法: Ensure that the WebSphere MQ Broker userid is a member of the group mqbrkrs.

826556 Validate - Group mqbrkrs does not exist

説明: The WebSphere MQ Broker resource failed to validate that the group mqbrkrs exists.

対処方法: Ensure that the group mqbrkrs exists.

834841 Validate - myisamchk %s non-existent or non-executable

説明: The mysqladmin command doesn't exist or is not executable.

対処方法: Make sure that MySQL is installed correctly or right base directory is defined.

835739 validate: Host is not set but it is required

説明: The parameter Host is not set in the parameter file

対処方法: Set the variable Host in the parameter file mentioned in option -N to a of the start, stop and probe command to valid contents.

836825 validate: TestCmd is not set but it is required

説明: The parameter TestCmd is not set in the parameter file

対処方法: Set the variable TestCmd in the parameter file mentioned in option -N to a of the start, stop and probe command to valid contents.

838688 validate: Startwait is not set but it is required

説明: The parameter Startwait is not set in the parameter file

対処方法: Set the variable Startwait in the parameter file mentioned in option -N to a of the start, stop and probe command to valid contents.

844160 ERROR: stop_mysql Option -H not set

説明: The -H option is missing for stop_mysql command.

対処方法: Add the -H option for stop_mysql command.

845276 WebSphere MQ Broker Queue Manager has been restarted

説明: The WebSphere MQ Broker fault monitor has detected that the WebSphere MQ Broker Queue Manager has been restarted.

対処方法: None. The WebSphere MQ Broker will be restarted.

845586 ERROR: start_mysql Option -L not set

説明: The -L option is missing for start_mysql command.

対処方法: Add the -L option for start_mysql command.

857002 Validate - Secure mode invalid in %s

説明: The secure mode value for MODE is invalid.

対処方法: Ensure that the secure mode value for MODE equals Y or N when registering the resource.

865963 stop_mysql - Pid is not running, let GDS stop MySQL for %s

説明: The saved Pid didn't exist in process list.

対処方法: MySQL was already down.

- 871438 Validate - User ID %s is not a member of group mqbrkrs
説明: The WebSphere MQ UserNameServer userid is not a member of the group mqbrkrs.
対処方法: Ensure that the WebSphere MQ UserNameServer userid is a member of the group mqbrkrs.
- 884759 All WebSphere MQ Broker processes stopped
説明: The WebSphere MQ Broker has been successfully stopped.
対処方法: None.
- 895418 stop_mysql - Failed to stop MySQL through mysqladmin for %s, send TERM signal to process
説明: mysqladmin command failed to stop MySQL instance.
対処方法: Either was MySQL already down or the fault monitor user doesn't have the right permission to stop MySQL. The defined fault monitor should have Process-,Select-, Reload- and Shutdown-privileges and for MySQL 4.0.x also Super-privileges.
- 897653 Validate - Samba sbin directory %s does not exist
説明: The Samba resource could not validate that Samba sbin directory exists.
対処方法: Check that the correct pathname for the Samba sbin directory was entered when registering the Samba resource and that the sbin directory really exists.
- 898957 Validate - De-activating %s, by removing it
説明: The DHCP resource validates that /etc/rc3.d/S34dhcp is not active and achieves this by deleting/etc/rc3.d/S34dhcp.
対処方法: None, /etc/rc3.d/S34dhcp will be deleted.
- 899940 check_mysql - Couldn't drop table %s from database %s (%s)
説明: The fault monitor can't drop specified table from the test database.
対処方法: Either was MySQL already down or the fault monitor user doesn't have the right permission. The defined fault monitor should have Process-,Select-, Reload- and Shutdown-privileges and for MySQL 4.0.x also Super-privileges. Check also the MySQL logfiles for any other errors.

Message IDs 900000–999999

900198 validate: Port is not set but it is required

説明: The parameter Port is not set in the parameter file

対処方法: Set the variable Port in the parameter file mentioned in option -N to a of the start, stop and probe command to valid contents.

914529 ERROR: probe_mysql Option -L not set

説明: The -L option is missing for probe_mysql command.

対処方法: Add the -L option for probe_mysql command.

916067 validate: Directory \$Directoryname does not exist but it is required

説明: The directory with the name \$Directoryname does not exist

対処方法: Set the variable Basepath in the parameter file mentioned in option -N to a of the start, stop and probe command to valid contents.

924002 check_samba - Samba server <%s> not working, failed to connect to samba-resource <%s>

説明: The Samba resource's fault monitor checks that the Samba server is working by using the smbclient program. However this test failed to connect to the Samba server.

対処方法: None, the Samba server will be restarted. However, examine the other syslog messages occurring at the same time on the same node, to see if the cause of the problem can be identified.

924059 Validate - MySQL database directory %s does not exist

説明: The defined database directory (-D option) doesn't exist.

対処方法: Make sure that defined database directory exists.

930535 Ignoring string with misplaced quotes in the entry for %s

説明: HA-Oracle reads the file specified in USER_ENV property and exports the variables declared in the file. Syntax for declaring the variables is : VARIABLE=VALUE VALUE may be a single-quoted or double-quoted string. The string itself may not contain any quotes.

対処方法: Please check the environment file and correct the syntax errors.

932026 WebSphere MQ Broker RDBMS has been restarted
 説明: The WebSphere MQ Broker fault monitor has detected that the WebSphere MQ Broker RDBMS has been restarted.

対処方法: None. The resource group will be restarted.

935470 validate: EnvScript not set but it is required
 説明: The parameter EnvScript is not set in the parameter file

対処方法: Set the variable EnvScript in the parameter file mentioned in option -N to a of the start, stop and probe command to valid contents.

939576 WebSphere MQ bipservice UserNameServer failed
 説明: The WebSphere MQ UserNameServer fault monitor has detected that the WebSphere MQ UserNameServer bipservice process has failed.

対処方法: None, the WebSphere MQ UserNameServer will be restarted.

942855 check_mysql - Couldn't do show tables for defined database %s (%s)
 説明: The fault monitor can't issue show tables for the specified database.

対処方法: Either was MySQL already down or the fault monitor user doesn't have the right permission. The defined fault monitor should have Process-,Select-, Reload- and Shutdown-privileges and for MySQL 4.0.x also Super-privileges. Check also the MySQL logfiles for any other errors.

944096 Validate - This version of MySQL <%s> is not supported with this dataservice
 説明: An unsupported MySQL version is being used.

対処方法: Make sure that supported MySQL version is being used.

947882 WebSphere MQ Queue Manager not available - will try later
 説明: Some WebSphere MQ processes are start dependent on the WebSphere MQ Queue Manger, however the WebSphere MQ Queue Manager is not available.

対処方法: None. The resource will try again and gets restarted.

957505 Validate - WebSphere MQ Broker /var/mqsi/locks is not a symbolic link
 説明: The WebSphere MQ Broker failed to validate that /var/mqsi/locks is a symbolic link.

対処方法: Ensure that /var/mqsi/locks is a symbolic link. Please refer to the data service documentation to determine how to do this.

978736 ERROR: stop_mysql Option -B not set
説明: The -B option is missing for stop_mysql command.

対処方法: Add the -B option for stop_mysql command.

980162 ERROR: start_mysql Option -F not set
説明: The -F option is missing for start_mysql command.

対処方法: Add the -F option for start_mysql command.

983530 can not find alliance_init in ~ALL_ADM for instance
\$INST_NAME

説明: Configuration error in configuration file.

対処方法: Verify and correct SAA configuration file.

986150 check_mysql - Sql-command %s returned error (%s)
説明: The fault monitor can't execute the specified SQL command.

対処方法: Either was MySQL already down or the fault monitor user doesn't have the right permission. The defined fault monitor should have Process-, Select-, Reload- and Shutdown-privileges and for MySQL 4.0.x also Super-privileges. Check also the MySQL logfiles for any other errors.

992415 Validate - Couldn't retrieve MySQL-user <%s> from the
nameservice

説明: Couldn't retrieve the defined user from name service.

対処方法: Make sure that the right user is defined or the user exists. Use getent passwd 'username' to verify that defined user exist.

995331 start_broker - Waiting for WebSphere MQ Broker Queue
Manager

説明: The WebSphere MQ Broker is dependent on the WebSphere MQ Broker Queue Manager, which is not available. So the WebSphere MQ Broker will wait until it is available before it is started, or until Start_timeout for the resource occurs.

対処方法: None.

996303 Validate - winbindd %s non-existent executable

説明: The Winbind resource failed to validate that the winbindd program exists and is executable.

対処方法: Check that the correct bin directory for the winbindd program was entered when registering the winbind resource. Please refer to the data service documentation to determine how to do this.